



医学教育測定

J.P. Hubbard 著 吉岡昭正 訳

私達は、患者さんの評価に関し、随分と関心を持ち、研究を重ねている。理学療法の臨床家として育てられた私達は、教育評価については、いわば素人で、理学療法教育評価につき、しばしば疑問の声をきく。評価なしでは、患者さんを治療できない。科学的評価なしには、理学療法教育も、当てずっぽうで、効果も偶然に頼ることになるのではなからうかと、この2、3年来、教育評価面が私の頭を離れない。この本は、理学療法教育そのもののズバリのための、ものではない。しかし、理学療法教育評価の参考書物が、手許に少ない日本の現状では、学校教育・臨床教育にたずさわるPTにとり、日常の手探り・試行錯誤を整理するために、示唆として如何であろうか。

目次は、1章 The National Board of Medical Examiners の役割 2章 試験委員会とその客観試験作業 3章 多選択肢問題の形式 4章 多選択肢問題に対する3つの指標：難易度 5章 臨床能力の客観的評価 6章 採点と分析 7章 医科大学に報告される試験の成績 8章 統一基準：全国のおよび国際的基準 9章 学習指導としての試験 10章 継続医学教育のための自己評価 11章 口頭試験 12章 臨床能力評価のためのコンピューターに基づくシステム 文献及び付録の以上である。

(医歯薬出版, 164頁, 2800円, 1973年)

(リハビリテーション学院, 理学療法士 田村美枝子)

POS —医療と医学教育の革新のための新しいシステム—

日野原重明 著

この本は POS (Problem-Oriented Medical System) について詳しく実例をあげながら紹介している。POSとは1964年に L.L. Weed により提唱された方法であり、文中の言葉を引用すると「患者のもっている医療上の問題に焦点を合わせ、その問題を持つ患者の最高の扱い方 (Best Patient Care) を目指して努力する一連の作業システムである。これは次の三つの段階により構成されている」。

第一段階：Problem-Oriented Medical System の作成

第二段階：P.O.M.S の監査 (Audit)

第三段階：記録の修正

POS の利点は患者を中心とした診療ができ患者にかかわる全ての医療スタッフが、患者の問題点を把握し易く、特にリハビリチームにおいては、各専門職間のコミュニケーションを高めるうえからも効果的である。またこの POS の考え方は非常に合理的で、自己或は他者に

よる POS の監査、及びその修正によって自己研修が常に出来、教育面に貢献する事が大きい。

日々が勉強であり、患者さんから学ぶ態度が重要だとは良く云われる言葉だが POS の導入はこの言葉を実践することに他ならない。この本は POS についてわかり易く例を豊富に示して説明してあるが、実際に施設でこの方法を導入するにあたっては、細かいとり決めを作る必要性があろう。全体的に医師を対象として書かれているので、PTの立場に翻訳して考える作業が必要であるが、著者は高名な方で、紹介するまでもない事と思う。最後に Weed の言葉を。

—患者のケア (care) の良し悪しは、ケアに関与する人々の教育の高さで決定される。その教育を高めるには、良い記録に負うところが大きい。—

(医学書院, 144頁, 1,800円, 1973年)

(慶大病院, 理学療法士 藤沢しげ子)